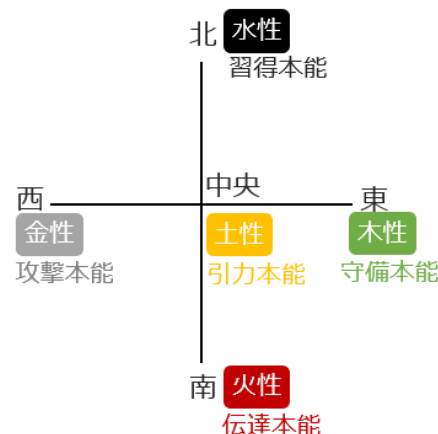


今月は丙辰月である。六秀という別称を持ち、とても聡明な干支である。女性が持つと良妻賢母となり、男性が持つとその聡明さから仕事で活躍し易い。丙辰の月干支の聡明さにちなんで、今月は教育という観点で紐解いてみよう。教育は子供に対する教育と、大人に対する教育の2種類がある。当然大人と子供に対する教育は異なるが、根底には共通部分がある。また自分自身を戒めていく指針としても陰陽論から観る教育概論は適用することが出来る。「人生を愚かな者で行くことは苦しい。敵と一緒に居るようなもので、心が落ち着かない。賢い者と一緒に居ると楽しい。友と一緒に居るようなもので、心が落ち着く。」経典ウダーナヴァルガ30-26にある言葉である。つまらぬ人と触れざるを得ないとき、一般的に「あの人の事は気にするな、取るに足らない人だ」と考えようとするが、取るに足らない人が自分に影響を及ぼさないと考えるのは間違いである。少なからず、その人は自分に悪影響を及ぼすのだ。私たちが抱える悩みの大半は人間関係が絡んでいることが多い。豊かな人と居ると、豊かさという影響を受ける。心貧しき者と居ると、心貧しいという影響を受けるのだ。従って、誰と一緒に居るのかは、とても大切である。本と友人は選びなさいと云うが、これは実に的を得た言葉である。誰から教育を受けるのかという観点も重要となる。何を教わるかではなく、誰から教わるかも重要なのだ。

さて陰陽論が説く教育概論を紐解いてみよう。陰陽論は陰と陽に分類される。人間は精神と肉体に二分することが出来る。陰は精神(心)、陽は肉体となる。よく心身共に健全なる事が良いと云う。心と身体、精神と肉体が同じように発展していったら人間は素晴らしくなる。しかし精神(心)は非常に揺れ動き易いものである。私たちの心は、その瞬間瞬間で、常に変化している。一つの情報で舞い上がったり、落ち込んだりするのだ。人間の心はコロコロ変わるからコロコロと云う。自分自身がしっかりしていれば、結果として自分の心が揺れなくなり、現実、つまり肉体がしっかりしてくるのだ。この変化していく精神をどう扱っていくかが大切な要素となる。その時に男女の違いが出てくるのである。人間は男性と女性に分かれる。人間として男女は平等である。どちらが良い悪いという類のものではない。ただしその役割に差が存在する。どういう役割の違いがあるかということが、陰陽論の一つのテーマとなる。その違いをきちんと理解して、子育て、または部下育成をしていかなければいけないのだ。親や指導者の育て方や考え方が、子供や部下の運勢に大きく影響していくのだ。昔から女の子は育てるのは楽であると云われる。それは女の子が男の子に比べると、精神的に早く大人になるからである。幼稚園児が「ままごと」をするのを見ていると女の子がお母さん役で男の子はその隣でただ暴れているだけだったりする。男の子の方が比較的幼稚で子供っぽい面があるのだろう。陰陽論的に云えば、男女というのは陰と陽の世界に分かれる。すなわち男性は陽の世界、女性は陰の世界である。陽は太陽の陽、陰は月で太陰である。男性は日に焼けて太陽のもとで暴れまわり、女性は身体も心も月の影響を強く受ける。出産も潮の満ち引きだと云われるが、これも月の影響である。従って男性は太陽の影響を受け、女性は月の影響を受けるのだ。この事からも男女で役割が違うのだ。その役割をしっかりと理解して教育をしないと、間違った育て方をしてしまうことになる。するといじめっ子、いじめられっ子という領域まで影響してしまうのだ。ある一つの家庭に夫、妻、子供が居たとする。陰陽論では世の中の最小集団を家族としている。五行論から紐解くと、縦は精神世界(陽)で男性を意味し、横は現実世界(陰)で女性を意味する。縦の男性と横の女性が中央で交差する。男性と女性が一つに重なる処、それが結婚である。結婚の目的の一つは子孫を残すこと。全ての夫婦が子供を作るわけではないが7~8割の夫婦が結婚して子供を作らないと、人類が終焉を迎えてしまう。宇宙の神々は男女という違いを創り、その交差点で子供が出来るというわけである。生まれた

南-北の縦は精神

東-西の横は現実



子供に肉体や現実性を与えるのが女性・母親の役割である。精神や思考方法を与えるのが父親の役割となる。これが縦と横の線という事になる。女性世界を横線で表すのは、女性は集団の中で上下感覚で対応するのではなく、皆対等であるという対等意識があるからである。もちろん女性の全員が対等意識があるわけではないが、基本的に女性は上下関係よりも対応意識が強く出易いのである。例えば家庭を垣間見ると、男性が年上、女性が年下であったとしても夫を友達や子供のように扱ったりする傾向がある。これは対等意識からきている。この事からも女性は基本的に上下感覚よりも対等感覚というものを持っているのである。逆に男性は上下関係を主たる指針として物事を判断する。従って社会的役職の上下は、男性にとってはとても大切になる。男性は役職にひれ伏し、女性は魅力に頭を下げるのだ。この要素は組織形成をする上で、とても重要なポイントとなる。対等というのは無礼ではないかという感覚は、男性社会だけの考えである。日本語や中国語のように縦に文字を書く国は男性主体の組織で、長幼の序をわきまえる。アメリカ、フランス等横に文字を書く国は女性主体の組織で、対等意識が主流となる。男性社会の特徴は縦世界なので上下感覚がある。親子関係において男性社会は父親や母親、兄や姉が怖い存在となる。つまり男性社会では年齢、地位によって遠慮をする傾向が出る。女系家族の特徴は娘が20歳を越えて大人になってくると母親と対等になってくる。この領域を覗いていかないと、それぞれの家のカラーというものを読み誤る可能性がある。親子関係は男系的に考えるのが順当である。親によって子供が生まれるので親子が対等というのは絶対にありえない。親は子供よりも絶対に上に存在する。どんな世界にあっても親子、師弟というのは上下関係にある。上下関係がなければ精神世界として未来永劫その組織が続くことは出来ないからである。もし親子が友達のように仲良くしていたら、その家はそこで終わりだと理解すると良い。つまり上下があるという事は過去の先祖から未来の子孫まで恩徳が流れていくのである。しかし対等になるとその流れが止まり、未来が続かなくなってしまう。仲の良い親子は良いのだが、あまりにも親の威厳が無くて対等な関係であれば、次の世代で一族が終わってしまうという暗示となる。このように運命は読んでいくのである。サラリーマンの世界では接待がある。お客様を含めて10名程で一つの席を囲むことがある。女系家族出身者は誰をどこに座らせるか分からない者が多い。男系家族出身者は瞬時に席の配置が出来るものだ。男性、女性の一つの考え方として活用して欲しい。

陰陽思考が非常に分かり易いのは、一つの答えを陽で出せば反対の答えは陰となる。男女という陰陽は、集団と個人で変化していくのである。一方を個人とするともう一方は集団となる。五方向で思考すると、東は守備本能で西は攻撃本能、北は習得本能で南は伝達本能となる。人間には知恵の戦いと身体のある戦いがある。知恵の戦いは将棋や囲碁等の知的な戦いである。身体のある戦いは剣道や相撲等である。相撲では支度部屋が東西に分かれている。それには陰陽論の明確な意味があるのである。身体＝現実＝横である。横の戦いなので東と西になるのだ。知恵の戦いであると北と南になる。北と南で戦ったというのは南北戦争、ベトナム戦争等である。国と国の戦いは知恵の戦いになる。北は知恵の場所で南は庶民の場所。アメリカの南北戦争で勝ったのは北軍、ベトナム戦争も北と南で勝ったのは北になる。南北の戦いにおいては北の方が有利である。横の場合は東西で対等なので、強弱はその時によって違うようだ。東が基本的に守り、西が攻撃となる。相撲でも東の横綱は相手の出方を見た方が良く、西の横綱は頭から突っ込んでいった方が良くするのである。東西は対等の勝負、南北は力量差のある勝負となる。東西南北を活用した代表的なゲームが麻雀である。東場になった時は横綱と同じ王様なので守りに徹する。大勝負をかけてあがるよりも千点でもいいので細かく貯金をしてあがっていくことである。南は伝達で遊びの場所なので、南場になったら遊び心を入れて勝負をしかける。西は攻撃本能の場所なので、西に位置したらリスクを取って、親に向かって大勝負をチャレンジする。北は習得本能の場所なので、品よく定石通りに知恵をつかって相手を倒していく。麻雀も東西南北で自分の場が回ってきた時に、どういう戦い方をすると有利かが読み取れるのだ。

さて男女の個人と集団の違いに戻ろう。男性は陽(+)、女性は陰(—)。集団は陽(+)、個人は陰(—)

であることを前提に読んでもらいたい。男性が個人で居る場合、攻撃本能が強くなる。集団になると守備本能が強くなる。これは全員に当てはまるわけではないが、その傾向が強くなるようだ。例えば通勤電車の中で足を踏んだ、踏まないで喧嘩している方が居たとする。あれは一人だから喧嘩になるのだ。その方が会社に行くと、とても素直であったりするものだ。男性は個人になると攻撃的になり、集団になると非常に保守的になる。女性は個人でいると守備本能が強くなり、集団になると攻撃本能が強くなる。女性は一人でいると静かである。女性は集団になると力が出てくる。これが個人集団における考え方の違いである。ここからも分かるように数多くの女性をまとめて集団を作る場合、数多くの男性をまとめて集団を作る場合は作り方が違うのである。例えば女性10人を集めて集団を作るとする。その時に何をすべきかと云うと、まずは役割分担である。それぞれの担当を決めると非常に上手くいく傾向がある。誰が偉いとかの上下感覚ではないのだ。これが男性社会の場合だと先にチームリーダーを決めるべきである。チームリーダーを決めたら、そのリーダーがそれぞれの担当を決めていったらよいのだ。ここが男性社会と女性社会の違いになる。この考えは組織を作る上で非常に役立つ。

更に男女の特質の違いを解説しよう。男性と女性では幸福と不幸になる条件が違う。男女共に育ち方に大きな影響を受ける。昔の子供は幅広い年代の子供と一緒に遊んでいた。子供の数の多さ少なさというのは、人間の運命に非常に大きな影響を及ぼしてしまう。日本の出生率は厚生労働省発表のデータで2016年度は1.44である。つまり夫婦当たりの子供が2人生まれると人の数は減らないがそれ以下となると子供が減っていく。中国の一人っ子政策と同じくらい子供が減るのだ。人間が減ってくれば外で遊ぶ子が減り、友達付き合いがほとんどできない子供が増えていく。それを踏まえた上で考察してみよう。男の子は社会人になって30代位から運気が上がり晩年まで幸せになる人と、人生全般の運勢が悪いままの人に二分される。その差は1人遊びが好きか苦手かという要素で決まる。幸せになる人は1人遊びが苦手な人、寂しがり屋、孤独が苦手なタイプの人である。昔でいうと学校から帰ってきてランドセルを放り投げて遊びに行くタイプである。換言すると集団が好きでタイプである。男性の場合の幸福の条件は集団が好きであるかにある。これに対して男性で社会人になって運勢が悪くなる人は孤独が好き、孤独に強いタイプである。学校でも家でも孤独でいる場合、中年期以降に不幸になる場合が多いようだ。ただし例外がある。男性の場合は社会で集団の中に入っていく。解説した幸福、不幸の定義は実業家、政治家、サラリーマン等の組織で働く方の場合に当てはまる。8割の方は組織で働く。フリーランスのような個人で働く場合は例外となる。組織に属さず、個人で働く場合は、子供時代に孤独でも幸せになれる。例えば作詞作曲家等、いわゆる芸術家の世界である。絵画、音楽等芸術の世界の方は孤独の方が幸せになる。鑑定士も孤独な方がよい。特殊世界に進む場合は、孤独な子供時代を過ごした方が有利となる。現代の子供は兄弟が少ない傾向がある。友達の数も少ない、1人でゲームやパソコンをしている。そうすると社会へ出て個人単独で孤独の中で仕事をしている場合は良いが、一般的な企業に入る場合には苦しいだろう。もし皆様の子供が会社に勤めて幸せにさせたいのであれば、人と一緒に食事をしたり、休日は人と一緒に遊ぶ環境を創り出すと良い。そうする方が運勢が良くなるのだ。それに従うかどうかは子供本人の自由である。今度は女性の場合である。女性の幸せになる条件は孤独に強いことである。孤独が苦手な集団の方が好きな場合は、不幸になる可能性がある。女性の多くは他家に嫁いでいく。昔は嫁に行くという事は今とは違って「女三界に家無し(広い世界のどこにも身を落ち着ける場所がないという意)」で一度家を出ると実家は他人みたいなものであった。嫁ぎ先が故郷と離れている場合、周りは全部知らない方ばかり。昔は見合いが主流なので旦那ともほとんど会ったことがない。敵陣に1人で乗り込むようなものなので、とても孤独なのだ。孤独に耐えられないと、嫁ぎ先でやっていけないというのが基本的にあるのだ。今の時代は必ずしもそうではない。結婚して嫁ぎ先で孤独になることは少ないし、自分の実家にもどる。最近では共働きの方が多い。また女性の方が長生きである。もし、孤独に弱くて集団の方が心が休まるというような女性であれば、夫が亡くなったらどうやって生きていくのか。あるいは子供達が結婚をして

出ていったらどうするのか。つまり夫や子供にあまりにも執着しているような女性であれば不幸になり易いのだ。自分の周りに夫がいて子供がいて集団でしかいられないというような女性は、永久に集団にすることができたら良いのだが、集団の中に長くいることは現実的に難しい。女性の幸福、不幸の条件は孤独に強いかわ弱いかわということでも決まってしまう。陰陽論は女性は孤独に強い方が良いと伝えている。江戸時代からの女性の趣味を振り返ると、割と1人で楽しめるものが多いようだ。お茶をたてる、お華を生ける、お琴や三味線を弾く等である。みなさんも小さい頃は1人で遊べるお手玉、あやとり、縄跳び等があったと思う。男の子は野球とかサッカー等の集団の遊びであったはずだ。子供の頃の遊びにも意味があるということを理解しておいて欲しい。

中高生で不良になる子が居る。陰陽論では不良の子は陰になり、それ以外の子は陽になる。不良になる子の特徴は基本的にさみしがり屋である。両親が共働きで1人で家にいる子や寂しさに耐えられない子程、不良になる。不良の子はだいたい集団形成をする。陰の世界なので集団になり易いのだ。もし子供が不良になった時には、愛情が非常に薄れていて愛情を求めているのだと理解し、愛を少しでも与える努力をすることだ。昔は兄弟の数も多いし、友達の数も多かった。集団で遊ぶことが非常に多かった。集団の中で育った人ほど、中年期以降で自分一代で会社を立ち上げて成功する人が多い。一代で成功する人は仲間同士で遊んだ人が多いのだ。昔と違い、最近はひとりっ子かふたりっ子で兄弟も少ないし、友達も少ない中で育った子が非常に多い。これからの日本というのは一代で財を成す人は非常に少なくなる傾向がある。これは日本だけの話ではなく、ひとりっ子政策の中国は急激に日本以上に老化するかもしれない。この理論を理解しておけば、その国の出生率でその国に大成功する人が多いのか少ないのかが分かるようになるのだ。

ここまでは子供時代にどうであったかを検証した。ここからは、過去がどうであれ、今から幸せになるにはどうしたら良いかを考察する。まず女性の場合、先程お伝えした孤独に強い人、言い換えると自分のペースで遊べる人が上手くいく。自分独自の趣味を持つことが改良のポイントとなる。夫と一緒になくとも子供や友達がいなくても自分のペースで遊んでいく。自分だけの趣味を持っていることは非常に強い。これを持っていると中年、晩年期とどんなことがあっても幸せになっていく。家族と一緒に楽しめるものもとても素敵ではあるが、家族がいなくても楽しめるものを持つことが大切なのだ。運の悪い女性は、夫や子供の方ばかりに神経が回っている。そのような女性は天中殺に引っ掛かりやすい人となる。例えば寅卯天中殺に引っ掛かりやすい女性の心配事は、夫や子供や親族、周囲の事ばかり言っている人である。過去はどうであれ女性の場合、孤独を受け入れ自分独自の世界を構築することが幸せを手に入れる改良のポイントとなる。男性の場合は、家に引きこもってはいけない。少しでも外へ出て「和合性」を楽しむという事が幸せになるポイントである。出来れば死ぬまで現役で働くのが良い。もし余生を楽しみたいのであれば、個人での趣味を持つよりは趣味仲間を作った方が良い。家の外に出て行かないと急速に老いていき、生き甲斐もない不幸な結末が待っている。話し相手となる仲間を構築していくことである。ボランティアでも経済活動でも趣味でも良いので、集団の中での和合性を意識することで幸福を得ることが出来る。

いじめられっ子は、学校のクラスの中や会社組織の中で一人、二人は必ずいる。これは男女で違いがあるのだ。男の子でいじめられる子の特徴は孤独の好きな男の子である。皆と「和合しない男の子」はいじめられる。孤独に強い男の子はいじめの対象になるのだ。女の子の場合は孤独に弱い子がいじめの対象になる。一人で居られない寂しがり屋の子である。孤独に弱い子は不良仲間には引きずられがちとなる。男性が多く男性が中心の家系を男系家族、女性が多く女性が中心の家系を女系家族という。男系家族の犠牲は女性になる。男系家族は男性が強く女性が弱い傾向がある。男系家族でお父さん、長男、次男、三男、四男、五男とお母さんがいたとする。お母さんは疲れ果ててしまう。これは絶対ではないが男系家族では女性が早く亡くなりやすいという。つまりしわ寄せがきて疲れやすい、運気を壊しやすいという事である。ぜひお願いしたいのは男系家族の場合は、そこに居る女性を大切にしたい。無理にこき使わな

いように、優しい言葉をかけると良い。女系家族は女が強く男が弱い。男の子が犠牲運になりやすい。女性はよく大地の母と言われる。男系家族は女性の数が少ないので地面が少なくなる。農家で例えると土地の狭い農家である。しかし男系家族なので種だけは沢山ある。狭い田んぼに撒く種の数を決まっているので、種が余ってしまう。残った種は外へ出て行くようになる。場合によっては他家へ養子へ行ってしまう。男の子が何人もいるような家系では、長男以外は養子に出されるか婿養子として他家に入ってしまう。そちらに行った方が力も発揮できる。これに対して女系家族は逆なのだ。田んぼは広いが、種がないのだ。種が欲しいので、外から婿養子を迎えやすい。女性の苗字にならなくても、女性側の家に入ることがある。二世帯住宅などで表札が二つ出ていると、婿をとった女系家族だなという事がわかる。年末の過ごし方をみても分かるが、男系家族の場合はほとんど親元に戻ってこない。女系家族の場合は皆が婿を連れて帰ってくる。女系家族の方には人が集まりやすいのだ。これも男系、女系の差になる。男性の多い家は徳の高い徳人が多い。これに対して女性の多い家は才能のある才人が多い。徳のある人はバランスのとれた人、陰陽論でいう中庸のとれた人である。才能のある人はアンバランスな人、偏りのある人である。例えば女性でタレントになる方を観ると、両親が離婚をしている等、偏った家系の方が多いようだ。両親が揃った環境で育った方が良いのか、片親で育った方が良いのか、それぞれに意味がある。子供からすれば両親が揃った方が幸せである。離婚する場合、子供への影響は必ずある。子供にとっては大切な父であり母であるからだ。陰陽論では離婚をすることは否定していない。できれば子供が18歳を越えてからにしないと伝えている。それは子供が多感な時期に両親が離婚すると、子供の心に必ず偏りが生じてしまう。バランスの良い子を育てるには、子供が18歳を越えるまでは離婚しない方が良いだろう。もし離婚するのであれば子供が生まれる前に別れた方が良い。これはあくまでも子供側からみた考え方になる。では子供が小さいうちに別れてはいけないのか。喧嘩別れもあれば、やむなくどちらかが事故や病気で亡くなるケースもある。小さい時に親が離別、死別してしまった時に、良い悪いではなくてそのケースは才能のある人を作りやすいという特徴が出る。芸術家になる家庭というのは両親の仲が悪かったり、何らかの形で片親になったケースが非常に多いのだ。才人と徳人で比べると、才人の方が若くして才能を発揮する。芸能人で才人に当たる人は割と早い段階から売れたりするのだ。早い段階から売れた人は割と早い段階から駄目になる人が多い。早く世に出る人、才能のある人は早く伸びると早く駄目になる。美空ひばりさんがそうである。これに対して徳人というのは、才人と違ってスピードが遅いのだ。両親が揃っていて男系家族でバランスが取れているというのは伸びが遅い。小学校、中学校の成績はさほど良くない。上にいくほど徐々に上がってきて、社会へ出てから更に良くなるというパターンがだいたい徳人である。企業で売上が大したことがなくても、徐々に上がってきてそこから先に子供が継いで孫が継いで継続していくような一家というのは男系家族である。才人は偏っていて早熟であるが早くダメになる。徳人はバランスがとれていて開花の速度が遅いが、年齢を積み重ねると良さが出る。こういう発想を掴んでいると、相談にきた時にこの人は一発売れるけどすぐにダメになるとか、この人は後から段々と力を発揮してくるとかが判断できるようになるのだ。例えば山口百恵さんは母子家庭で苦労して育ってきた。女系家族の中で育った才人と判断できる。かなり早い段階で売れたが、彼女の運の強さは結婚して潔く辞めたことだ。その結果、男の子二人が生まれて元気に生きていらっしゃる。もし彼女が売れ続けていたら結婚がダメになるか、場合によっては身体を壊したり短命だったかもしれない。最近では安室奈美恵さんだろう。偏った家庭環境で育ち、早熟で若くしてブレイクしたが、離婚をして40歳で引退。才人の典型的な例である。ぜひ広い目をもってこういう背景を含めた上で運命の流れを読み解いて欲しい。

運命とは不思議なもので連鎖という繋がりがある。例えば結婚に関して。時折、天中殺期間中でしかパートナーに出会わない人もいる。ある人の場合は天中殺の時に恋愛をした。それ以外の時には絶対に恋愛相手が出てこない人であった。基本的に結婚は天中殺の時期を外すのだが、この人のように天中殺の時にしか相手が出てこない場合には、ダメもとで天中殺の時に結婚しなさいとお伝えする。年齢が若い時



であれば結婚に反対したとしても、ある程度の年齢であれば勧める場合もある。天中殺は確かに避けなければならない。特に避けなければいけないのは若い時、人生を造る時、結婚、新築、事業立ち上げ等、これからそれによって伸びていこうとするきっかけを天中殺期間に実施するのはお勧めしない。天中殺とは何かといった時に、分かり易く表現すると、人生の冬の時期である。冬の時期に種を植える人はいるだろうか。春になって種を植えれば何十倍もの収穫を得ることができる。天中殺に結婚したり、事業を立ち上げた人は、真冬に種を撒くようなもので、苦労の割には収穫が少ないのだ。天中殺に絶対やってはいけないとは言わないが、その代わり多くの犠牲があり、その割には収穫が少ないことを理解しておかなければならない。特に若い時のスタートとしては、極力避ける判断をするべきだ。ただ晩年期になって発展性がなくても良い場合には、天中殺期間のスタートも悪くはない。例えば家を建てる場合に天中殺は避けなさいと判断するが、80歳も過ぎていれば、天中殺期間に家を建てるのは構わない。介護施設に入る等も、天中殺でも構わない。ただ行った先が何となく合わないという事はあるだろう。老後の場合、別荘新築の場合は天中殺でも大丈夫である。これは敢えて進めているわけではない。これから発展するのではなくて、引き下がる場合にはそのような考えもあると紹介しているのだ。

今月は陰陽論における教育概論と男女の違いについて解説をした。陰陽論は非常にシンプルな理論ではあるが、応用範囲が広いことが前述の例でもご理解頂けたと思う。学んだ理論を、どうか実生活に落とし込み活用して欲しい。これは日々の意識である。例えば男性であれば和合性と集団、女性であれば孤独と個人の世界観を創り出すことである。意識すれば誰でも実践できることである。どうかこの学びを実践して、みなさんの実生活をより良く改善して欲しいと強く願っている。